

SGH 通信

R1.10.18 シンガポールリサーチ号

高知県立高知西高等学校

〒780-8052 高知県高知市鴨部 2 丁目 5 番 70 号

TEL 088-844-1221 / FAX 088-844-4823

URL: <http://www.kochinet.ed.jp/nishi-h/>令和元年度高知西高校 SGH 海外リサーチ

【シンガポール報告】

「高齢者がいきいきと生きるためには」

「日本の英語教育を考える～シンガポールの英語教育と比較して～」

上記 2 つの探究テーマを探るべく、9 月 23 日からの 5 日間で、2 年生 8 名が「シンガポールリサーチ」に参加しました。東京都 23 区ほどの小さな国であるシンガポールが、建国 54 年という短い歴史の中で、国際社会の中で、経済的にも技術的にもトップレベルになりつつある秘密を探りに行きました。科学技術研究庁の Experimental Therapeutics Centre をはじめ、三菱商事シンガポール支店など、国際的な研究所、企業で日本語、英語両方で取材を行ってきました。また、JETRO Singapore では、シンガポールという国の概要を、Jurong Birdpark では、国を跨いで自分の夢をかなえた動物看護師に取材しました。

【三菱商事 シンガポール支店】



【Jurong Bird Park】



【マリーナバレージでの水学習】



【Fusion world での見学】



言語、特に英語というものがシンガポールにおいて仕事、学業の基盤であるということがよく分かった。しかし同時にバイリンガル教育制度というのは、完璧な実現が難しく、現状は、母国語（親のルーツの言語）と英語の両方がペラペラに話せるシンガポリアンは、少数という課題がある。言語に限らず教育に国があげて力を入れているシンガポール（国家予算の投入額は防衛費について2番目に多い）でも、2言語話者としての人材が少ないことを考えると、日本で2言語政策を行うことは難しいと思う。

Agency for Science, Technology and Research (A*STAR) 井上先生の講義で、若い世代の日本人が海外に留学や渡航することが少ない傾向にあるお話を聞いた時、日本人の性格として内向的であることがあげられるので、その性格そのものが海外とのつながりや言語への意欲の低さにあらわれているのではないかと思った。ただし、日本、海外関係なく言語（英語）は武器というよりはツールであるので、一概に

「英語を使えること」と「グローバル人材」を結び付けることはできないのではないかと感じた。



JETRO シンガポールでは、公立高校入学後、勉強についていけず退学してしまう人が多数い



る。シンガポール国内では、数少ない大学の一つである国立シンガポール大学は、世界大学ランキングで23位（東京大学42位 2019年）という難関さである。その大学に進むためには小学5年の共通試験で選抜された進学コースを実施している公立中学、公立高校へと進学して勉強する必要がある。その勉強についていけず公立高校を退学したあとは、私立高校に再入学したり、職業訓練学校に入学したりすることが多い。エリートとそうではない人との格差は目に見えているより大きいと思った。

多民族国家

というものをまず最初に感じた。ホテルやMRT（地下鉄）、デパートいたるところでそれを感じた。人口の7割が中華系の人ということもあり、現地の人のお話は英語より中国語を話す人が多いように感じた。また飲食店も、中華料理が多く、私たちは一日の中で1食は中華だった。料理は美味しかったが、野菜がなく、色どりが乏しく健康的な食事がとれていなかった。シンガポールは水が貴重なため、レストランや屋台に水はなく買わなければならなかった。食の面では日本の方が健康的であり良いと感じた。



相当の先進国

であるということだ。いたるところ高層ビルが立ち、街路樹がたくさん植えられた街並みが整備され、きれいで圧倒された。政府が「庭園の中の都市」づくりを推進し、街路樹を増やし公共交通を利用させるために路線を広げるなど、エネルギー効率化政策も推進している。環境に配慮した取り組みが行われている。小学校卒業時、12歳で受けるPSLEというテストでこれからの人生が既に決まってしまうことやバイリンガル、トリリンガルは当たり前前に驚いた。日本との学習に対する熱意や、重要性が大きく違っていた。三菱商事では、説明が全て英語で聞き取ることはできたが、理解するのが難しかった。単語すら分からない所があり、もっと勉強しないといけないと思ったので、これからの英語の授業に対するやる気が出た。

